

# 研究のあしあと

久美浜小学校研究推進委員

令和7年12月25日

11月7日（金）3校時「あきと なかよし」 1年生 授業者 福富 康子  
「町の すてき つたえたい」 2年生 授業者 中西 敬仁

今年度の研究の大きな節目となる公開授業があり、11月をもって単元が終了しました。生活科の研究だけでなく地域へも発信する大きな機会となりました。授業に係わる研究協議会では、感想と共に視点に沿って、多くの意見もいただきました。その意見をもとに校内事後研究会で更に方向性を具体的にし、その後の授業実践や久美浜学博へとつなぐこともできました。

《参観の視点》①それぞれが自分の課題をもち、主体的に学習に取り組めていたか。

② 気付きの質を高める手立てや環境作りができていたか。

**研究主題「生き生きと表現し、主体的に学習する子どもを育成する生活科の創造」**

～ 活動や体験から生まれる思い・願いを深い学びへ～



11月7日研究発表大会  
授業に係る協議会

1年感想



2年感想



大会後の研推まとめ



1 年

### ① 自由進度の学習内容を児童と共に構想する

・初めて行った自由進度学習「生きもの 大すき」では、学習方法が難しいと感じる児童や★印を全部クリアできずに学習時間を終えてしまう児童がいた。その反省を踏まえ、本単元は自由進度で行う部分の学習内容を児童と共に構想する形をとった。自分達で作り上げた学習内容であれば、共有ができ、学習内容と方法の確認の時間も作れる。また、児童がより主体的に学習に向かうことができる。今回の手法により（2回目ということもあったからかもしれないが）ほとんどの児童が★印をクリアすることができた。また、学習の流れがわかっていることで「今度は〇〇やってくる。」と次の学習へと進む児童が多く見られた。

### ② 学習途中で「立ち止まる時間」を設定

・材料も思いも違うそれぞれの秋のおもちゃを作るため、自由進度学習の中で交流する学習内容を設定しても表面上の「楽しかった」「おもしろかった」で過ぎ去っていた。そんな中、グループでの話し合いから、「もっと〇〇したら。」「ここを直した方がいいよ。」と、きちんと指導した上で伝え合う時間をあえて設定した。そのことにより、これまでのおもちゃより改良され、言われたり友達に指摘したりすることで、気付きの質が高まっていたように感じた。私自身も悩みを打ち明けすぐに相談に乗ってもらうことができ、いろいろな方から意見をいただくことの大切さを感じた。

### ③ 毎時間「めあて」と「振り返り」を書き、他者参照できる環境に

・1年生の中には「めあて」を立てることも難しいと感じる児童がいた。しかし、友達のめあてを見てこれまで全くめあてを書けなかった児童が書けるようになり、更にその友達と協力して1つのおもちゃを作り上げたことは、他者参照できることの効果だった。また、振り返りボードに毎回指導者がアドバイスを書いたり、次の視点を与えたりすることで、児童が自信をもって活動したり自分のおもちゃを振り返ったりすることができるようになったように思う。

## 2年◎今回の学習を終えて学んだこと

### ①めあてと振り返り

・児童一人ひとりがその時間の個人の「めあて」を設定し、授業の終わりに「めあてに対する振り返り」を行うことで、自分がこの時間に何をするのかの見通しがもてたり、学び方を学んでいけたりすることが分かった。個人のめあてだけでなく、学級としてのめあてを提示する必要がある場合もあるので、よりよいやり方を選択していく。

### ②環境づくり

・地域おこし協力隊の野口さんからの話で町探検の学習をスタートさせ、保護者・地域サポーターにお世話になりそれぞれが興味をもった場所へ行けたことが、自分事の学びとして捉えることにつながり、意欲を大きく向上させた。児童の「思いや願い」を制限なくなるべく実現できるような環境づくりの大切さを学んだ。

・11月7日は、発表するだけでなく、「発表→フィードバック→改善→発表」というサイクルができるような環境を作った。それにより児童は発表をよりよくしようと目的意識や相手意識をもって前向きに取り組むことができた。またその中で、深い学びである「伝えたいことが伝わるよざ」「地域の人と関わることの楽しさ」を感じることができた。

### ③授業づくり

・「児童に何をさせたいか」ではなく、「どんな姿が深い学びなのか」を明確にイメージすることからスタートし、それを実現するためにどんな手段を使うかを考えて構想していく必要がある。また、教師だけの

## 今後の方向性について 3 学期全学級で取り組む実践

- (1) 付きたい力（気付きの質を高める・深い学びへ向かう・そのほか付きたい力）を意識した振り返りを行う。45 分間で毎回することが難しい課題に対して、工夫して書かせたり書く以外の方法でさせたりしたこと、実践により見られた変容を児童に書かせた資料を使い交流する。
- (2) 地域ボランティアにお世話になる・特別教室を活用する。2 学期同様、地域ボランティア様にもお世話になりながら地域連携を行う。また、1・2 年生以外でも単元を通しての授業での活用を行う。
- (3) 3 学期のまとめを作成する。学びのサイクルや単元を通して取り組んだことを、模造紙などにまとめ、児童の目にも触れられるようにし、3 月の生活科・総合的な学習の時間のまとめで交流する。  
また 2 月の児童アンケートを実施し、授業に対する感想をまとめの参考にする。